

総務教育常任委員会資料

(平成23年6月2日)

【件名】

- 1 平成23年度韓国江原道教育庁との教育交流事業について（教育総務課）…… 1
- 2 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について（教育環境課）…… 2
- 3 第5回鳥取西高等学校整備のあり方検討会の結果概要について
（教育環境課・文化財課）…… 3
- 4 国史跡 青谷上寺地遺跡の追加指定及び活用等について（文化財課）…… 5
- 5 美術品の購入について（博物館）…… 7

教育委員会

平成23年度韓国江原道教育庁との教育交流事業について

平成23年6月2日
教 育 総 務 課

平成23年5月25日、鳥取県教育委員会教育長と韓国江原道教育庁教育監とが協議を行い、平成23年度教育交流事業を下記のとおり行うことに決定しました。

記

- 1 教育庁との教育交流について
○江原道教育庁教育監の来県
＜時期＞平成23年10月中旬頃
- 2 教員交流事業について
○鳥取県教員の江原道への派遣
＜時期＞平成23年6月28日～7月3日
- 3 児童生徒交流事業について
○江原道児童生徒の鳥取県への受入
＜時期＞平成23年10月頃
- 4 日韓家庭・地域教育交流事業について
○鳥取県PTA関係者等の江原道への派遣
＜時期＞平成23年8月～10月頃
- 5 来年度事業に向けての実務者協議について
○実務者協議団の鳥取県への受入
＜時期＞平成24年1月～3月頃

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

平成23年6月2日
教育環境課

工 事 名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工 期	契約年月日	摘 要
県立鳥取工業高等学校共通実習棟耐震改修工事 (建築)	鳥取市生山	こおげ建設株式会社	133,035,000円 (予定価格 146,429,850円)	平成23年5月19日～ 平成23年10月31日	平成23年5月18日	
県立智頭農林高等学校教室棟耐震改修工事(建築 ・電気設備)	八頭郡智頭町 智頭	八幡コーポレーション 株式会社	101,955,000円 (予定価格 112,795,200円)	平成23年5月25日～ 平成23年10月31日	平成23年5月24日	

第5回鳥取西高等学校整備のあり方検討会の結果概要

平成23年6月2日
教育環境課・文化財課

第5回鳥取西高等学校整備のあり方検討会を下記のとおり開催した。

1 日時等

日時：平成23年5月23日（月）午後3時～午後4時40分まで

場所：県庁 議会棟 特別会議室

出席者：検討会委員10名

2 概要

第4回の意見を踏まえ、具体的な整備方法ではなく、この検討会の本来の目的である大きな方向性についての議論を行った。

3 主な意見等

(1) 文化財の保存と活用、将来の移転

- 長期と短期の問題を分けてほしい。長期の問題である文化財の保存や移転と、当面の学校の存在とに矛盾はない。短期の問題である文化財の活用では、市の整備計画が唯一の計画で、これと両立する学校の建替計画は、文化財の保存と活用の方針に抵触しない。長期的な文化財の保存のため、今の学校整備をやめろと言うのは矛盾である。
- 石垣が見えて史跡の中にいつでも入れることが重要で、地下に埋めておけばいいというものではない。学校が史跡内にあることがおかしく、学校の移転が基本である。
- 学校が出て行ってまで完全な文化財保護を求める必要があるのか。専門家の意見はそうかもしれないが、まちづくりなどの観点で、一般市民が納得されるか疑問である。
- 第2グラウンドの靱蔵跡の価値を素人に分かるように示すべきである。専門家は遺跡全体の価値が上がったと言うが、客観的な議論がなされていない。
- 当面の耐震改修はしないといけないが、移転のところで議論が止まっている。移転は検討するというので、将来の議論に任せてはどうか。
- 移転先も分からないのに、学校としては移転すると言えない。共存を前提とした市の史跡整備計画のとおりに進めてほしい。

(2) 国の許可手続

- 教育権と文化財保護が対立しているが、1億3千万円もの税金を投入して申請直前までいったので、結末はしっかり整理すべきである。国の文化審議会を通る見込みがないから申請しないのはおかしい。審議会で議論すべきである。
- 許可手続は文書で残すべきで、口頭ですべきものではない。申請して、不許可理由を文書でもらい、行政として妥当かどうか議論し、透明な手続きを踏むべき。現地改築は不可能となっているが、きちんとした説明が文化庁からなされるべき。
- 申請手続きを止めないことが大切で、申請を止めたことに我々は反発している。県文化財保護審議会からの意見を受けて民主的な議論にこだわっていると思うが、民主的な手続と政治的な決断で決めるべき問題である。申請をして不許可だった場合、不許可の理由は言ってくれるのではないか。

- 文化庁は本件を行政指導する場合は、行政手続法により、指導の理由を文書で出さないとはいけない。
- 申請をして手続をきちんとしておくという意見には共感する。
- 今までの文化庁の発言から、現地改築の許可はあり得ないし、不許可の明確な理由が出てくるとは思えない。
- 鳥取市の史跡整備計画は、鳥取城跡と鳥取西高の共存が前提だが、第2グラウンドで朽蔵跡が発見されて話が変わってきた。前提に戻って、学校との共存を強く望んで、現地改築の許可申請を出すことができないか。

(3) 整備の方向性

- できるだけ早く生徒の安全確保、教育環境を良くすることに異論はない。一番早いのは耐震改修であるが、学校関係者の現地改築の主張も理解できる。文化庁に申請して不許可となり、訴訟になったら、耐震改修がすぐにはできなくなる。現地改築ができないとの結論になれば、耐震改修に向かうのではないか。
- 保護者からの意見もあり、早急な耐震化は必要である。
- 耐震改修にも幅がある。耐震改修でも生徒の教育環境を第一に考えてほしい。新たにしっかり耐震改修する場合と、既に計画のある建替えて、完成の時期はそう変わらない可能性もある。
- これまでの議事録を読ませていただいたが、意見を一本化するのは無理ではないか。市にとっては史跡整備が重要だが、まず、生徒の安全確保を第一に考える必要がある。
- まちづくりの観点からも議論いただきたい。学校と町がともに教育と町の環境を形作ってきた歴史もある。

(4) 意見のとりまとめ

- 文化庁に現地改築で申請するのか、それとも当面の耐震改修とするのか、この検討会で結論は出せない。教育長はソフトランディングをと言われたが、無理である。偏った意見でまとめてほしくない。対立した意見があるのだから、最終的には行政と議会を含めた政治が判断すべきことである。
- この検討会のとりまとめとして、できれば一つの大きな方向性があればよかったが、それが難しいという判断で、異なる意見も記載するような報告書のたたき台を事務局で作成してもらって、次回以降検討することとしたい。

(参考)

検討会委員（11名）

▼学識経験者

- 池本 百代【鳥取女性中央会幹事、まちづくりレディース鳥取会長】
- 岡田 昭明【鳥取大学名誉教授、県文化財保護審議会会長】(欠席)
- 坂出 徹【鳥取商工会議所専務理事】
- 錦織 勤【鳥取大学教授、県文化保護審議会部会長】
- 濱田由紀子【鳥取県弁護士会副会長】
- 東樋口 護【鳥取環境大学副学長】
- 道上 正規【(財)とっとり地域連携・総合研究センター理事長】(座長)

▼学校関係者

- 青木 節也【鳥取西高等学校校長】
- 池内 勝彦【鳥取西高等学校PTA会長、同窓会副会長】
- 松下栄一郎【鳥取西高等学校同窓会副会長】

▼鳥取市

- 江本 克也【鳥取市教育委員会事務局次長】

国史跡 青谷上寺地遺跡の追加指定及び活用等について

平成23年6月2日

文化財課

国の文化審議会（会長 西原鈴子）は5月20日に文部科学大臣に対して、鳥取市青谷町・青谷上寺地遺跡の一部を追加指定することを答申しました。

青谷上寺地遺跡については、5月30日から第13次発掘調査を遺跡中心域の西側境界部分の集落様相を解明することを目的として実施しています。

また、これまでの調査・研究に基づいて、青谷上寺地遺跡の最盛期である弥生時代終わりごろ（約1800年前）の景観を復原したCG動画を、青谷上寺地遺跡展示館で一般公開しています。動画は埋蔵文化財センターのホームページでも閲覧できます。

さらに、青谷上寺地遺跡で古代米による稲の色の違いで絵柄を浮かび上がらせる「田んぼアート」に下記のとおり取り組みます。今回は一般から参加者を募り、絵柄の背景部分の田植えを実施し、秋には青谷上寺地遺跡にちなんだ「田んぼアート」が浮かび上がる予定です。

記

1 史跡追加指定について

今回の追加指定地は、遺跡の中心域と水田域であり、当初から指定対象地でしたが、今回所有者の同意が得られたことにより、下記のとおり追加指定されるものです。

・指定対象の所在地

追加指定地：鳥取県鳥取市青谷町青谷字上寺地4248番1外 1筆

追加指定面積：2,090㎡

・これまでの指定履歴

当初指定：平成20年3月28日（139,875.13㎡）

追加指定：平成22年8月5日（3,217.88㎡）

青谷上寺地遺跡追加指定地、発掘調査現場
及び「田んぼアート」の位置図

2 第13次発掘調査について

・日程：平成23年5月30日（月）
～11月下旬（予定）

・場所：青谷上寺地遺跡

※位置図は右図を参照

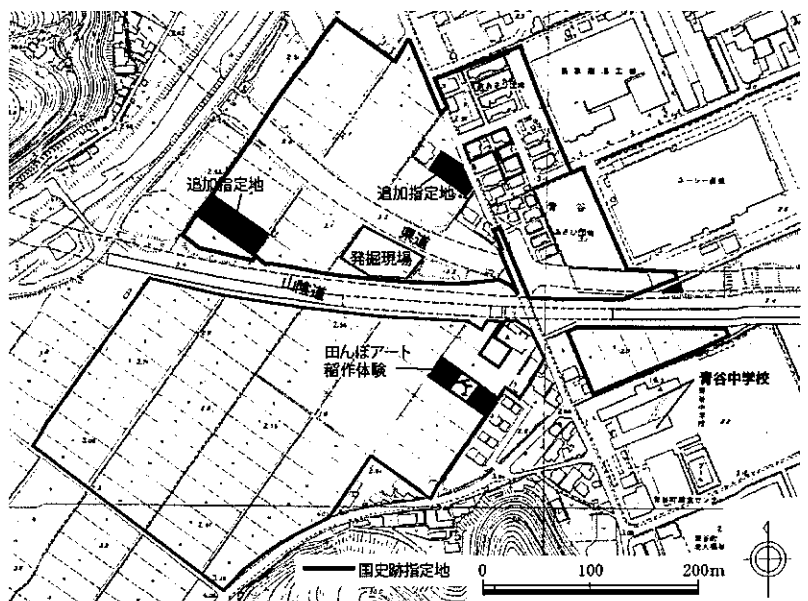
・現地的一般公開について

○期間：5月31日（火）から
発掘調査終了まで

※土・日曜日、祝日、天候等により調査を行わない日は除く

○時間：午前9時～午後4時

○公開：公開時間中は、発掘調査担当職員が見学者に発掘調査の状況を説明



3 景観復原CGの概要

- ・青谷上寺地遺跡を含む青谷平野の景観（南北約6.7km、東西約4km）を復原。
- ・復原した景観は、発掘調査及びボーリング調査で得られた層序や花粉などのデータを詳細に分析し、検討を重ねた結果に基づくもの。
- ・集落の様子は、発掘調査成果や出土した建築部材を基に推定復原。
- ・公開する動画は、上記内容をCGで制作し3分31秒にまとめたもの。

※注：復原した青谷平野の景観CGと、現在の青谷平野を空撮したアングルは少し異なるが、両者とも青谷上寺地遺跡を南側から鳥瞰しているもの。

【復原した約1800年前の青谷平野の景観CG（上）】



【現在の青谷平野の写真（下）】



4 「田んぼアート」・古代米田植えの体験（新規）

- ・開催日時：平成23年6月12日（日）午後1時～3時30分（雨天中止）
- ・場所：史跡青谷上寺地遺跡（鳥取市青谷町青谷）※位置は前ページ図面を参照
- ・参加費：無料
- ・対象者：幼児から大人まで100名（幼児・児童は保護者同伴）
- ・その他：参加者には昨年度収穫した古代米（試食用）を無料配布の上、秋の収穫祭には案内通知を発送
- ・主催：青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会
 ※史跡の保存活用を図るため、鳥取県・鳥取市・民間団体が協働連携する協議会。



田んぼアート絵柄（緑の部分の田植えを実施）



動物が描かれた琴の側板
（青谷上寺地遺跡出土）

美術品の購入について

平成23年6月2日
博 物 館

鳥取県美術品取得基金を活用して以下の美術資料(13点)を購入する予定である。

購入予定作品

NO	分野	作家名	作品名	制作年 (和暦)	材質技法 (員数)	寸法 (単位 cm)	購入予定価格 (税込千円)
1	近世絵画	しまだ げんたん 島田 元旦 (1778~1840)	かちようのず 花鳥之図	江戸時代後期	絹本着色 (二幅)	(各) 135.8×44.3	2,500
2	近代絵画 (日本画)	すが たてひこ 菅 楯彦 (1878~1963)	しょうりょうえ ちょうこうらく 聖霊会・鳥向楽	1925年 (大正14年)	絹本着色 (三幅)	(各)146.0×42.0	1,500
3			ふどうみょうおう 不動明王	—	紙本着色 (一幅)	77.0×77.0 (円窓)	735
4		こばやかかわ しゅうせい 小早川 秋聲 (1888~1974)	こうしえんぼうず 高士遠望図	1919年 (大正8年)	絹本着色金泥 (六曲一双)	(各) 172.0×376.0	5,750
5		なかしま さいとう 中島 菜刀 (1902~1955)	まつばかき 松葉かき	1929年 (昭和4年)	紙本着色 (一面)	105.5×138.5	3,400
6	近代絵画 (洋画)	まえた かんじ 前田 寛治 (1897~1930)	うみ 海	1929年 (昭和4年)	油彩・カンヴァ ス (一面)	41.0×53.0	8,000
7		おさき ていのすけ 尾崎 梯之助 (1910~1986)	くだもの	1970年 (昭和45年)	カンバス・油彩 (一面)	53.5×45.5	600
8			赤い魚	1971年 (昭和46年)	カンバス・油彩 (一面)	46.0×39.0	300
9	近代彫刻	つじ しんどう 辻 晋堂 (1910~1981)	じつとく 拾得	1961年 (昭和36年)	陶彫 (一点)	95.0×60.0× 18.0	8,505
10	現代工芸	まえた あきひろ 前田 昭博 (1954~)	はくじ めんとりつぽ 白瓷面取壺	1979年 (昭和54年)	磁器 (各1点)	直径30.0 高さ39.0	525
11			はくじ こくもんふたもの 白瓷刻文蓋物	1993年 (平成5年)		直径31.5 高さ18.2	682.5
12			はくじ つぽ 白瓷壺	2009年 (平成21年)		直径31.1 高さ39.6	892.5
13	現代美術	なかはし かつしげ 中ハシ 克シゲ (1955~)	ニノミヤ君	1992年 (平成4年)	鉄 (一組)	サイズ可変	3,465
計							36,855

■購入候補作品



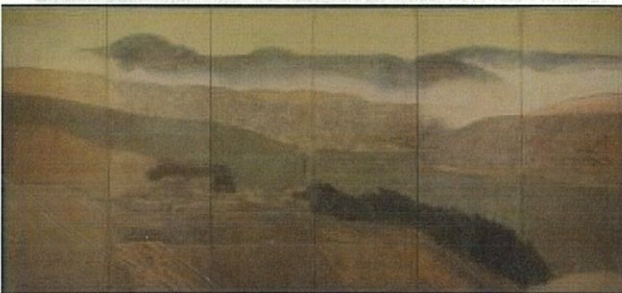
①島田元旦《花鳥之図》江戸時代後期 絹本著色



②菅楯彦《聖霊会・鳥向楽》大正14年(1925) 紙本著色



③菅楯彦《不動明王》紙本著色



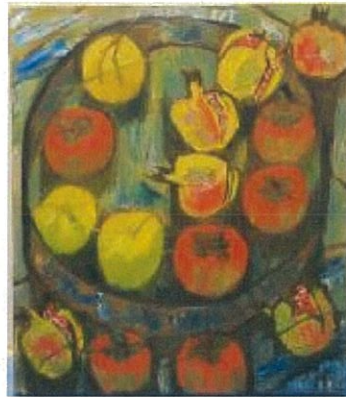
④小早川秋聲《高土遠望図》大正8年(1919) 絹本著色金泥



⑤中島菜刀《松葉かき》昭和4年(1929) 紙本著色



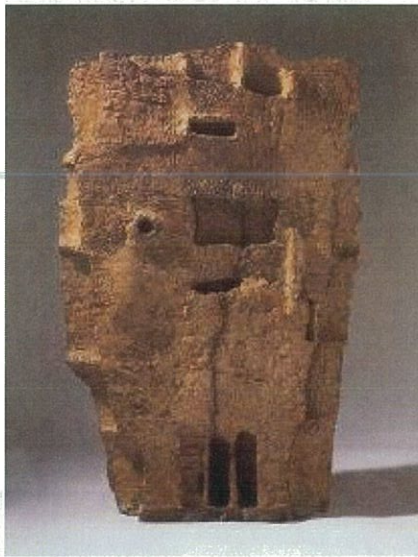
⑥前田寛治《海》
昭和4年(1929) 油彩・カンヴァス



⑦尾崎 悌之助《くだもの》
昭和45年(1970) 油彩・カンヴァス



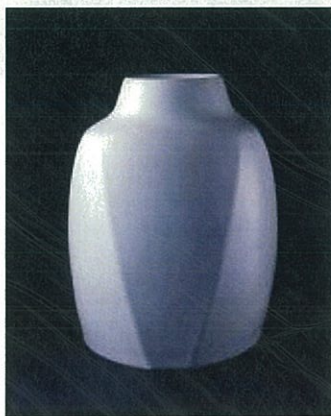
⑧尾崎 悌之助《赤い魚》
昭和46年(1971) 油彩・カンヴァス



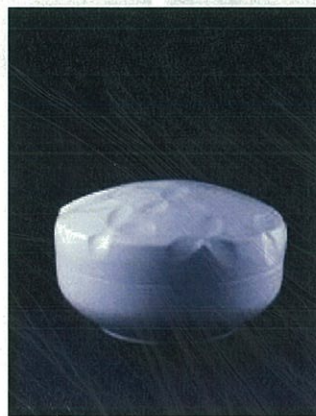
⑨辻晋堂《拾得》昭和36年(1961) 陶彫



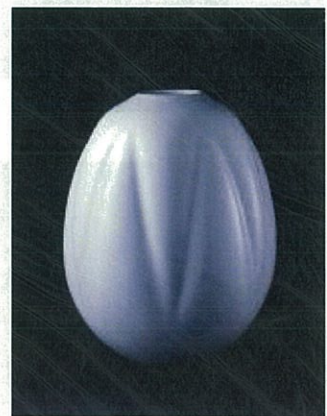
⑬中ハシクシゲ《二ノミヤ君》平成4年(1992) 鉄



⑩前田昭博《白瓷面取壺》
昭和54年(1979) 磁器



⑪前田昭博《白瓷刻文蓋物》
平成5年(1993) 磁器



⑫前田昭博《白瓷壺》
平成21年(2009) 磁器